

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	おおさかふりつせこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27～31	① 学校名	大阪府立能勢高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	6クラス 155人	
総合科	53	56	46		155		
⑥研究開発構想名	国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究						
⑦研究開発の概要	<p>国際協力を受ける当事者と支援する外部者の協働のあり方を理解するとともに貧困が引き起こすストリートチルドレンの人的、経済的支援のあり方の相違、経済発展の中で破壊される自然環境の保全に対する当事者と外部者との対立と調整のあり方を理解し、双方の立場に立って意見を述べることによってグローバル・リーダーとしての判断力を磨く。また、国際協力の実践を多角的に学び大阪府民、能勢町民、能勢高校生、人間としてできることを考える。さらに、クアラルンプール大学、大阪大学、大阪教育大学、海外姉妹校等と連携し協議、ワークショップを重ねグローバル・リーダーとしての実践力を培う。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標 (目的) ①国際理解・国際交流に力を注いできた能勢高校の経験、関係を活かす研究開発（活かす） ②これまでの教育内容を深化・発展させる研究開発（深化する） ③自らが課題に直面し考え実践する力を育てる研究開発（実践する） ④国内外大学との連携の中でグローバルな課題をともに考える研究開発（ともに考える） ⑤能勢町民とともに進める研究開発（ともに働く） (目標) ①現状を理解しグローバルな見識を持って判断できる生徒の育成 ②地域課題に直面し国際協力の手法を活用し実践できる生徒の育成 ③グローバルな視点を持って地域で協働できる生徒の育成 ④グローバルな現場で能勢町や能勢高校を語れる生徒の育成</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校は、平成13年度から能勢町立の東中学校と西中学校とともに中高一貫教育推進校の指定を受け、実践的な研究を開始し、大阪府公立学校で初の連携型中高一貫教育をスタートさせ、普通科・園芸科から総合学科に改編。5ヘクタールの農場を有し、ブドウ・クリなどの果樹栽培、羊の飼育、養蜂、里山保全など地域の特性を活かした教育を推し進めている。国際社会で活躍できるグローバルな感性を身につけるため、国際交流・異文化理解に力を注いでおり、平成22年7月にユネスコスクールに認定。 (仮説) ①子どもの危機、マングローブの危機をみて判断力を育成 ②当事者と外部者が支える地域をみて協働意識を育成 ③地域貢献活動への自主的な活動を促し参加意識を醸成</p> <p>(3) 成果の普及 英語版を含めた本校のホームページ、あるいは関係大学、関係機関のホームページ、SGHのSNSを通じ、逐次進捗状況等を発信する。また、年度ごとに作成した報告書については、関係する大学、機関、高校へ幅広く配布するとともにホームページで公開する。研究開発</p>					

	<p>成果については、年度ごとの中間発表会、発表会に加え、連携中学校をはじめ、能勢町付加価値創造協議会、能勢町住民を対象とした成果発表会を開催し報告する。また、学校農業クラブ主催の研究発表会・集い、ユネスコスクール交流会等も積極的に活用する。マスコミ関係においては、記者発表を積極的に行うこととし、新聞掲載記事等による更なる普及に努める。</p>
<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 課題研究内容 (2) 実施方法・検証評価</p> <p>○テーマ「貧困とストリートチルドレン（モンゴル）」・子どもたちへの教育（H28）・自立的な地域社会の構築と相互連携（H30）「経済発展と自然破壊（マレーシア）」・木炭製造の中で消えゆく森林（H27）・エビ養殖とマングローブの植林（H29）・プランテーションと森林破壊（H31）。PDCA サイクルを活用し、研究開発単位ごと、あるいは年度ごとでの進捗・達成状況を検証した上で、内容・計画を設定していく。</p> <p>①スーパーグローバル基礎知識講座：1年次生（産業社会と人間・農業と環境）2・3年次生（総合的な学習の時間）→外部講師を招へいしての講義やワークショップ等を通じ当事者と外部者の関係を理解し解決すべきグローバルな課題を知るとともに、グローバル人材になるための道筋を理解させる。</p> <p>②スーパーグローバル重点分野講座：2・3年次生（スーパーグローバルスタディ）→「ストリートチルドレン解消、マングローブ植林」などグローバルな課題をテーマにその解決についての課題解決学習。また、大学等との連携により英語による論文作成能力、プレゼンテーション能力を高める。海外姉妹校、能勢町内、農業クラブ、ユネスコスクール、大阪大学外国語学部のイベント等での SGH 活動発表、SGH 中間発表会・最終発表会の他、JICA などでのパネル展示（ポスターセッション）、商品販売支援会への参加を積極的に行う。英語版高校ホームページを創設し、情報配信を積極的に行う。</p> <p>③海外実態調査 2・3年次生（スーパーグローバルスタディ）→モンゴル、マレーシアでの支援活動等を通じ、課題に直面し、当事者と支援者双方を理解</p> <p>④クアラルンプール大学ワークショップ 2・3年次生（スーパーグローバルスタディ）→海外実態調査の報告をもとに大学生等とともに協議し、グローバルな課題を共有</p> <p>⑤海外からの留学生とのワークショップ 2・3年次生（スーパーグローバルスタディ）→グローバルな視点から課題解決を図る</p> <p>*①～⑤について、事前、事後等のアンケートにより生徒の理解度、満足度、変貌等の把握、講座への参加生徒数、英語技能に係る検定の受験等を指標とする。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>教育課程の特例に該当しないが、重点分野講座を実施するため、平成 27 年度以降入学生から、2・3年次に、各 2 単位の自由選択科目として学校設定教科「生涯教養」で学校設定科目「スーパーグローバルスタディ」を開設する。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 なし</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れ体制の充実</li> <li>・クアラルンプール大学との連携</li> <li>・オーストラリア国際交流研修の充実</li> <li>・ユネスコスクール活動の活性化</li> </ul>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成 26 年度は、SGH アソシエイト校として、クアラルンプール大学学長との SGH 研究活動受入合意、マレーシアアスンタ高校との姉妹校を提携、大阪国際大学の外国人講師による英語研修会、学生や留学生との交流イベント等を実施。産業社会と人間等の授業で外部講師による「スーパーグローバル基礎知識講座」（14 講座）を開催。</p>